

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2297200319		
法人名	特定非営利活動法人 ゆい佐久間		
事業所名	おおらかハウス		
所在地	静岡県浜松市天竜区佐久間町相月2062		
自己評価作成日	平成28年12月24日	評価結果市町村受理日	平成29年3月24日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	一般社団法人静岡県介護福祉士会		
所在地	静岡県静岡市葵区駿府町1-70 静岡県総合社会福祉会館4階		
訪問調査日	平成29年1月26日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

介護する上で「おおらかに こまやかに さりげなく」をモットーとして、おおらかに関わり、細やかに感じ取り配慮し、さりげなく接するよう心掛けています。しかしこれは究極のテーマであり常に自己点検を迫られている。また低所得の方々にも利用していただけるように運営上経営は厳しいものの利用代金を低く設定している。地域との関係は良好で防災訓練や各種行事、地元での活動に多くの協力・援助をいただいております。事業所としては地域と持ちつ持たれつ関係を築くため施設の開放を常に考えています。また利用者に対しては日中の活動として一昨年より着物の糸ほどこ作業を取り入れほどこいた端切れを製品化して幅広く販売。取り組む利用者にとって生きがいにもなっている

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

市街地から離れた山里の静かな環境の中、利用者は穏やかに生活している。ホームでは、地域の方々と共に行事を楽しんだり、サロンに参加させてもらっており、地域との関係も良好である。日常生活では楽しく会話をしながらの食事やできるだけ希望にそった外出支援を行っており、職員は常に寄り添い支え、おおらかにさりげなく接することを心がけ、ホーム内は温かな雰囲気にも包まれている。利用者との会話も親近感からか方言を使うこともあるが、十分に配慮しながら使うよう努めている。また、日中活動の中に可能な方々のみではあるが、“着物をほどこ布として趣味の店に卸す”という物流を仕事としてとらえること、指先を動かすことで意欲を高める等の工夫もされており“やりがい”を意識した取り組みも行っている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	ふだん意識していることがなく実践につなげているという実感に乏しい	地域密着型サービスを意識しPRしていくことを目指しており、管理者が作成した理念ではあるが職員全員で共有し、一人ひとりが意識して実践につなげていけるように工夫されている。	毎月のカンファレンスで理念について話し合い、地域に根ざしたサービスの意識を高めていくことを期待します。
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の催し(祭りや食事会)に参加したりホームの行事(納涼流しそうめん、防災訓練、食事会)に参加してもらったりボランティアとして手伝ってもらったりしている	地域の祭典には、職員と一緒に焼きそばやたこ焼きなどの露店を開き参加している。地域の独居の方が集うサロンに参加し交流させてもらっている方もいる。またホームの行事には、多くの地域の方が、ボランティアとして協力してくれたり、演芸を共に楽しんだりしている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	たよりや日常の付き合いの中で介護体験の募集や一時利用についてPRしているが応募者、利用者がいない		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営状況をつぶさに報告し意見をいただいている。グループホーム間の交流については会議でいただいた意見をもとに開始している	佐久間協働センターの職員や地域の委員の方々と、家族、職員を交え、ホームの取り組み状況を報告して意見を頂き、地域の理解と支援を得る機会にしている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	最寄りの市の窓口であるセンター担当者とは話す機会もあるが本庁担当職員に意見を聞く機会を作ってもらえるよう働きかけを行っているが今の所反応がない	市の窓口であるセンターの担当者とは話す機会を持っているが連携不足を感じる事もある。事業所は行政側に運営状況を見学してもらいコメント等ほしい旨を伝えている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	玄関の施錠は夜間のみとしている。その他あからさまな拘束はしていないが全体としてスピーチロックはなかなか改善できないでいる	スピーチロックはたとえおきてしまっても、最低限でくい止める努力をしている。言葉遣いを徹底しても、まだまだ改善までにはつながらない。方言でも相手を傷つけてしまうことがあるので、語尾には気をつける配慮をしている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	明らかな虐待行為は発生していない。ただアンガーマネジメントを学ぶなどして職員自身のいら立ちや怒りなどを解消し思いやる心を常に持ち関わるよう話し合っているが一部の職員に不適切な関わりや表現がまだ見られる		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	過去には研修等で学ぶ機会もあった。ただ現場としてそれをどう取り入れ活用するかいまひとつピンとこない		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	利用開始時の契約についての説明や中途での利用代の改定や介護度の変更などの事態に関して理解が得られるようできるだけわかりやすく説明を行っている		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	特には意識した場を設定していない。日常的にその都度話を聞くことにしている	意見箱は設置しているが、利用者や家族からの意見や要望は少ない。日常の中で話を聞くようにしている。嗜好に対する意見等があった場合は速やかに対応している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月の職員会議において常に意見に耳を傾ける姿勢で臨んでいる。またその都度意見を伝えやすいよう目安箱を設置し自由に思いを伝えられるようにしている	職員向けに意見箱を設けている。意見・提案については会議の中で取り上げ報告をして明らかにしている。出された意見・提案に他の職員もコメントをしてくれることで、全職員が共有できている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員の負担を考慮し、極力労働時間が伸びないように、また連続勤務が続かないよう勤務を考慮しているが人員に余裕がなく不十分である		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員体制に余裕がなく外部での研修になかなか出席できない分、毎月の会議の中でできるだけケアの質を高めるための研修を取り入れている		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	管理者は2か月に一度程度の割合で市内のグループホーム管理者と情報交換や意見交換の場を設けている。職員の交流は年一回程度にとどまっている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	耳を傾けるようにはしている。その中で実現可能な要望には極力応じるよう努めている		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	サービスの利用についての説明を十分に行い理解をえること、不安を残さないことを念頭に対応している		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	できるだけ細かな情報も吸収し不安に陥らない初期対応となるよう努めている		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者の介護レベルが上がりに共に支え合う暮らしというには遠くなっている		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	帰宅願望が強く落ち着かない利用者に対して2週間に一度家族に協力を求め自宅に帰省してもらって方がいる。また利用者の生活ぶりをできるだけこと細かにご家族に伝え状況の共有に努めている		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ホームでの生活が長くなるに従い馴染みの方々の足も遠のく関係にある。利用者の情報はできるだけ伝えるようにし関係の継続を願っているが思うようにならない	入所時は近隣の馴染みの方も見えてくれていた。長くなると自然と縁遠くなりがちではあるが、できることは対応し関係性が継続できるように努力している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	気の合わないもの同士が無用のトラブルなどに陥らないよう、また気の合う者同士が関係を深められるよう関係にあった関わりとなるよう支援している		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退居後安定した生活を築けるよう生活上のアドバイスを続けたケースがある		
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日中の活動の中に手作業を取り入れたり、食べたいものへの配慮、マイペースな生活の尊重などそれぞれの意向を把握できる範囲で可能なことは実現してやるよう努めている。ただ充分とは言えない	日中活動の中に手作業(着物をほどこ作業)を取り入れ、4名の方が参加してしている。市内の趣味のお店で買い取ってくれることで、意欲にもつながっている。近隣の方々から材料の着物寄付をしていただき、需要と供給がうまくできている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人やご家族、ご親族等から情報を得ているがケアに活かせる情報は十分とはいえない		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている			
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	サービス計画の作成は職員の話し合いの中で作成してご家族の了解を得ているが本人の意向を反映しているとは言い難い。モニタリングは記録に残すようにしている	介護計画は、本人・家族の要望や変化に応じて臨機応変に見直しをしている。見直された介護記録は必ず職員が記録に残し、モニタリングに活かしている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の実践を介護日誌に記載しサービス計画の見直しの参考にしているがケースごとの詳細な記録はできていない		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	帰宅願望が強く落ち着かない利用者には2週間毎に家族の協力を得て自宅への帰省を支援している。またこれまで取り組んでこなかった看取りに昨年より取り組んでいる		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地元社協主催の食事会などの催しに参加させてもらったり地域のバザーなどに利用者の作業によって生まれた製品を販売させてもらうなどしている		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	希望に合わせて入居前にかかっていた医療機関との関係を保ちつつ嚙嚙医の定期往診も得ている。昨年より歯科医も往診してくれるようになった	本人、家族が馴染みの医療機関による継続医療を受けられるように支援しているが、事業所の嚙嚙医が5分程度にあり、本人と家族の同意と納得のうえ嚙嚙医の定期往診を利用している。通院は職員が付き添い、状況が分かっているので家族も安心し、受診後の状況は家族に伝えている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	昨年より訪問看護ステーションと契約し週一回の訪問を受けている。訪問の際に日頃の気づきの報告や対応の仕方についての疑問等相談し看護師としての意見や指示も受けている		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院後の生活を支えるための援助を行い早期の退院を目指して医師との話し合いを行っている		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時にホームの方針を伝え、年一回ご家族の意向の調査を行っている。この2年間でご家族の意向を受けて2人の看取りを行った。訪問看護師以外との医療連携は今後の課題である	重度化した場合や終末期の支援の在り方については、入居時に事業所の方針を伝えている。年1回ごと家族の意向調査も行っている。本人・家族の意向があれば、看取りをしている。職員で率直に話し合い実施している	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時の判断や初期対応、応急手当など実践面での積み重ねという点では経験も乏しく不安が強い。訪問看護師の指示が頼りというのが実情		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	地震や火災を想定した訓練は実施しているが水害や土砂災害に対する訓練は行ってこなかった。現在防災マニュアルの見直しを行っており地域との協議を始めている	川のそばに立地していることもあり、岩手県の水害を教訓に、洪水による災害をイメージし、支援を得るための協議を自治会と進めている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	人格を尊重しプライバシーに配慮した対応や言葉かけができていないと感じる時が多々ある。常に職員全体で検証し改善していく必要性を感じている	一人ひとりの誇りを尊重し、プライバシーの確保を徹底していくことを、毎朝のミーティングや月1~2回の職員会議で話し合うように意識をしている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	意志を表現できる方についてはその意志を尊重しているが表現できない方の思いをくみ取ることが十分できていない気がする		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	それぞれのペースを尊重できる範囲でしているつもりではあるができないことも多い。入浴や食事など職員の勤務状態に合わせてもらっているのが実情		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	希望のある方にはそれに沿うようにしている。外出時はそれなりの服装を相談しつつ身だしなみを整えている		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	一週間の献立を事前に伝えたり、毎日の献立を書き出したりして食事を楽しみにしてもらえるようにしている。またできるだけ会話をしながら楽しく食べることができるよう心掛けている。できる範囲での片づけなどへの関わりもお願いしている	2ヶ所から食材を取り寄せ調理して保温し盛り付けをしている。個人の好き嫌いも確認して調理している。利用者も高齢化が進み、食事の一連の作業は主に職員がしているが、片付け等できる方はできる範囲で関わっている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養バランスを考えつつ咀嚼困難な方にはおかゆ、刻み食、持病に合わせた食事量と減塩対策など個々に合わせた食事を提供している。ただ水分の摂取量をどう確保するかは続いている課題である。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後の歯磨きは職員の体制上難しいため夕食後の歯磨きとそれ以外の食後のうがいをしてもらうよう声掛けしているがそれも不十分で徹底できていない		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	可能な限り、トイレでの排泄を心がけて行っている。排泄パターンを読んで失敗を少なくする取り組みは進展しておらず失敗を減らすに至っていない。夜間のパッドを減らすことも引き続き課題である	日中は可能な限り、トイレでの排泄を心掛けて誘導している。夜間は3時間おきに誘導をしているが、排泄パターンを把握して個々に合った排泄支援をめざしている。	排泄習慣やパターンの構築、腹圧のかかりやすい姿勢などに焦点を当てて、気持ち良く排泄ができるように配慮されることを期待します。
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食物繊維を多く取り入れた朝食や野菜の多い料理の提供を心がけ便秘を予防したいと取り組んでいるが薬の力を借りないと安定した排便ができない方が多い。運動や水分摂取も必要と感じているが充分には行えていない		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	基本的に入浴日を決めているが状況に合わせて柔軟な対応をしている。ただ夜間等希望の時間帯や連日の入浴希望には職員の体制上添えていない	一人ひとりの生活習慣やその時々希望を大切に、入浴支援をしている。入浴することによって生まれる羞恥心や恐怖心、負担感等を職員は理解し、利用者に無理強いくことなく、精神状態に合わせた声掛けをしている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中でも眠気の強さや本人の希望により自由に居室で休んでもらっている。また夜間安眠できるよう日中は作業等で適度に心身を使ってもらっているが活動の低下した方の対応は充分できていない		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている			
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	趣味、嗜好は継続できるよう支援している。日中着物の糸ほどこき作業に取り組んでもらうことで張り合いのある生活を送っている方もいる。ただ活動力の落ちている方々の力を生かすことが充分できていない		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	近場での散歩は天気が悪くない限り毎日出かけている。またほぼ月一回の集団外出を行っている。またドライブや自宅への帰省のための外出も個別に行っている方もいる。以前のような温泉への泊りがけの外出や東京見物などの大掛かりな外出は最近はできていない	利用者が日常的に外出できるよう支援している。全員で出かけたり、グループで体力に合わせて外出している。外出機会の調整をするのが難しく、行きたいところがあっても行かせてあげられないこともあるができる限り希望に添えるように工夫している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	小銭を持っている方は3名いるが商店が近くにない日常的に使用する機会がない。月に一度の外出の際に個々に好きなものを買ってもらう機会は持っている		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望があれば自由に電話で話してもらっている。またご家族との日ごろのやりとりを勧めているがご家族から電話がかかってこないことが多い		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を探り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	それぞれの生活空間に使用目的を示す表示をつけわかりやすくしている。また季節の花や掛け物などで生活感や季節感を感じてもらえるよう配慮している	温度調整は20度を目安に調節し、炬燵に入りテレビを見たり、利用者一人ひとりの感覚や価値観を大切にしながら、居心地よく過ごせるよう配慮されている。また、各部屋の表札にも、山里にふさわしく楽しい工夫がされている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ホール内にテレビを見るスペースやコタツで団欒するスペース、玄関内外のベンチなどのスペースを設け自由に過ごしてもらっている		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご家族にはできるだけ馴染み物を持参してもらうよう常々話しているが個々にかなり差があり持ち込み品の多い方とそうでなく殺風景な中で過ごしてる方とある。生活感のある空間とするための工夫も更に必要である	身近な馴染みの物を持ってきて自分らしく過ごせるようにしているが、認知症の進行に伴い、利用者によって持込みに差があるのが現状となっている。本人が、落ち着いて過ごせるための環境を整える工夫はされている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	自力で歩行できる方の安全の確保のために手すりや頑丈な椅子を配置し自力での歩行の手助けができればと考えている。また全体の空間配置をわかり易くして自分で判断して行動できるようにしてる		